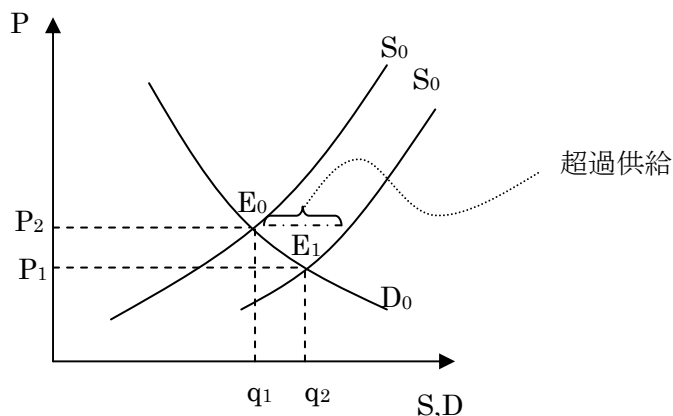


市場調整について (つづき)

ケース 2



今、 S_0 と D_0 の交点で均衡

この時、供給が増大して(企業の生産機技術の向上 etc)供給曲線が右にシフトしたとする

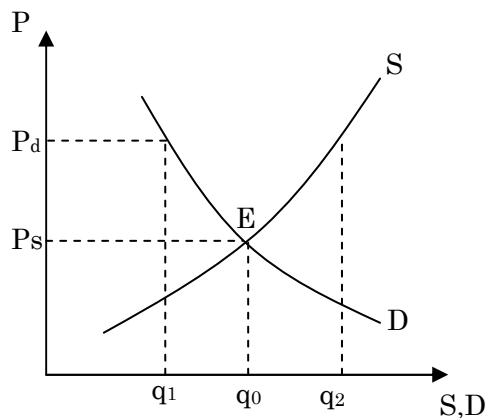
この時、 P_0 では需要は均衡しない。そこで P_0 の価格で望む量売りつくせない供給者が存在する→超過供給の状態

売りつくせない供給者は市場価格よりも低い価格を提示し始める

最終的には P_1 まで下落して均衡

こういった価格による市場調整のことをワルラス的調整という。

別の調整過程も考えられる



いま、供給曲線 S と需要曲線 D がある

例えば企業の総供給量が q_1 とする

この時企業は財の価格が P_s なら q_1 だけ供給してもよいと考える

さらに P_2 よりもっと高い価格であったとしても企業にとって不都合はない

その意味で P_s は q_1 だけ供給するときに企業が受け入れられる最低の価格といえる

→供給価格という

他方消費者は財の価格が P_d なら q_1 だけ購入してもよいと考える

さらに、もしこれよりも低い価格であったとしても消費者にとって不都合はない

その意味で P_d は q_1 だけ購入するときに消費者が受け入れられる最高の価格
→ 需要価格という

q_1 のもとでは $P_d > P_s$ であり、 P_s よりも高い価格で財を売っても企業も消費者も不都合はないので企業は生産を拡大して最終的には E での均衡が実現する。

q_2 のもとでは $P_d < P_s$ であり、このときには企業は生産を縮小して最終的には E での均衡が実現する。

こういった数量による調整をマーシャル的調整という

完全競争市場の最適性について

市場メカニズムを通じた資源配分の望ましきについて考える

「完全競争市場での自由な経済活動のもとでは価格の需給調整機能を通じて効率的な資源(生産物、生産要素)配分が実現される」

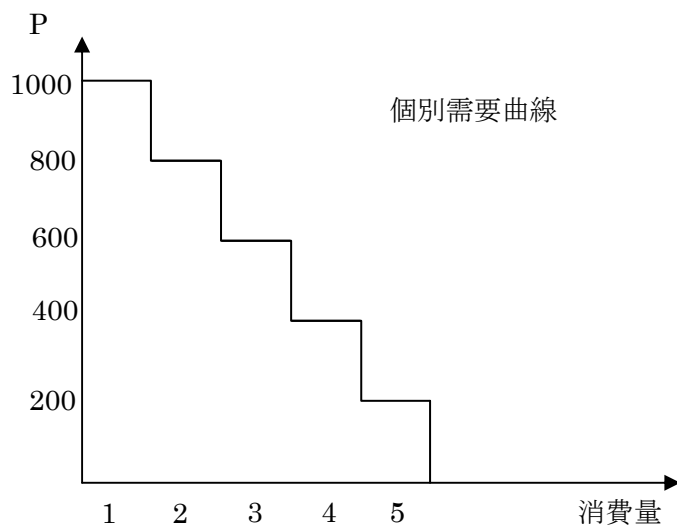
→ これを完全競争市場の最適性と呼ぶ

余剰分析

余剰分析 { 消費者余剰
生産者余剰

q_i

消費者余剰



今、財価格が

1000 円なら 1 個買うことが望ましい

800 2

600 3

400 4

200 5

別の言い方をすれば消費者は

財を1個だけ買うのに1000円払ってもよいと考えている

財をもう1個だけ(つまり)2個目の財に対しては800円払ってもよい

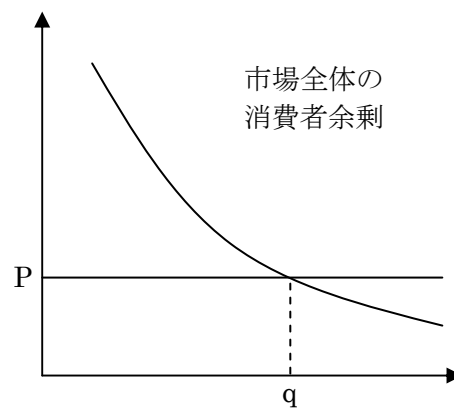
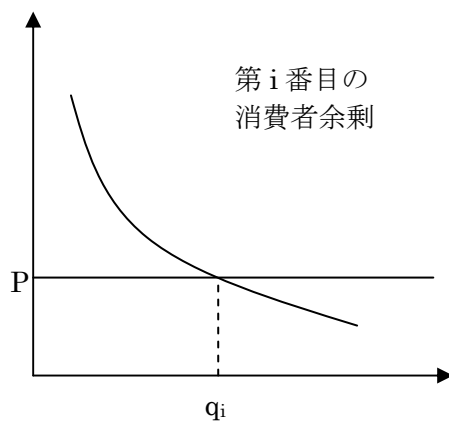
3	600
4	400
5	200

追加的には買っていくうちに財の価格は下落していく

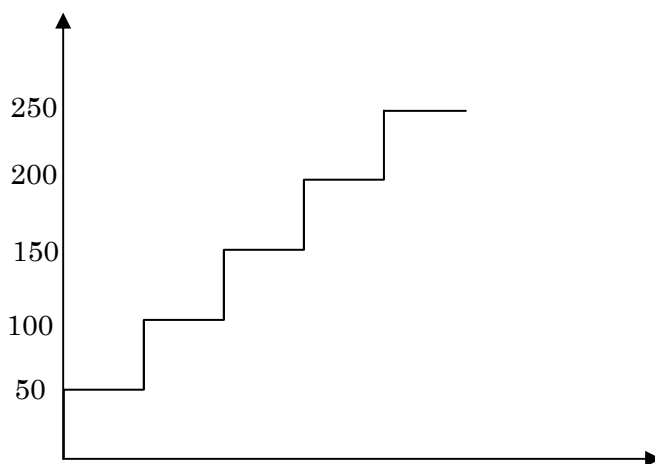
(払ってもよいと思う価格が下落していく) ←留保価格という

→満足度が下がる

→(金額表示で見た)限界効用が逡減する



生産者余剰



今、財価格が

50円なら	1個
100	2
150	3
200	4
250	5

1 個作るのに 50 円

もう 1 個追加して 2 個目をつくると 100

3 150

4 200

5 250

追加的に生産するうちに費用が逡増していく

